

## ■ 子どもとともに未来をつくるコンダクター ■

# 特別支援教育コースへようこそ！

### 学校教育課程 特別支援教育コース

特別支援教育コースでは、知的障害児をはじめとする発達障害児に関する理解を深め、地域・社会における共生の理念のもと、障害児教育の理論や実践について教育研究をおこない、人間発達への深い理解をめざします。

### 特別支援教育コースはどんなところ？



#### 【在学生によるコース紹介】 佐藤 暉（平成29年度入学）

特別支援教育コースでは、特別支援の知識や各障害への理解を、講義だけでなくボランティア活動などを通して体験的に深めることができます。将来、教育現場に携わることを目指す人にとって、実際に相手とかかわり、学びを活かす機会というのは、とても有意義で貴重なものです。講義を受けるだけでは得られない多くの経験を積むことができるのは、特別支援教育コースの大きな魅力です。また、特別支援教育の知識は、現在では全ての教員に求められる重要なものです。目指す学校種にかかわらず、必ず将来の力になるでしょう。さらに、充実しているのは、学びだけではありません。頼もしい先生との出会いがあり、全学年で一緒に盛り上がるイベントも盛りだくさんです。このような人とのつながりも、このコースの魅力です。

## どんな免許が取得できるの？

特別支援学校教諭免許はもちろんのこと、幼稚園、小学校、中学校、高等学校教諭の免許が取得可能です。

## 授業にはどんなものがあるの？



特別支援教育コースでは、知的障害や病弱、肢体不自由を中心に様々な障害について学びます。主な専門科目は以下の通りです。

|                 |
|-----------------|
| 障害児教育学総論        |
| 発達障害病理概論        |
| 知的障害教育論         |
| 知的障害児の心理学       |
| 病弱教育総論          |
| 病弱児の心理・生理・病理    |
| 肢体不自由教育総論       |
| 肢体不自由児の心理・生理・病理 |
| 視覚障害教育総論        |
| 聴覚障害教育総論        |
| 言語障害教育総論        |
| 重複障害教育総論        |
| LD・ADHD 等教育総論   |
| 特別支援学校教育課程論     |
| 特別支援教育研究演習      |
| 知的障害児心理学実験      |
| 知的障害児生理学実験      |
| 障害者福祉論          |
| 特別支援学校教育実習      |

## ボランティアが盛んな特別支援教育コース

### 【在学生からひとこと】 本庄 舞（平成29年度入学）

現在教育現場には、特別な支援を必要としている子どもたちがたくさんいます。教師を目指すにあたって、障害を抱える子どもを含め、全ての子どもに向き合うことが必要不可欠です。私は、特別支援教育コースでの学びを通して視野が広がり、一人ひとりの子どもの幸せを考えることの大切さを知りました。特別支援教育コースは、障害についての講義を受けるだけでなく、ボランティア活動や全学年での交流の場も多くあり、楽しみながらより深く、障害を抱える子どもやその子どもの支援について考えることができます。このような充実した環境の中で大学生活を送り、様々な見方や考え方に触れることが、自分自身の成長につながっていると実感しています。

### 【虹の輪】

#### 須田 大樹（平成29年度入学）

虹の輪では、特別支援学校に在学中又は卒業された会員の皆さんと一緒に、スポーツやダンスなど体を動かしながら楽しく活動しています。誰もが得意なこと苦手なこと好きなもの嫌いなものがあり、それは障害があるなし関係ありません。「やりたい」「やってみたい」「楽しみたい」を大切にしたいと考えています。虹の輪は1つの「居場所」になるような団体であり、他者と関わるうえで多くの大切なことを学ぶことができる場所です。



### 【T.E～手話・点字サークル】

#### 田崎 安海（平成29年度入学）

私たちT.E. ～手話・点字サークル～は、様々な活動を通して主に手話を学んでいます。普段の活動では実際に、ろう者の方と手話でコミュニケーションをとったり、一緒に手話を学んだりしています。また、年に約2回、聴覚支援学校の寄宿舎の生徒たちとの交流会を開いています。全ての活動がとても楽しく、自分が伝えたいことが手話で伝わった時はとても嬉しいです。T.E. はこのような活動を通して、手話を知り、多くの人と交流ができる素敵なサークルです。





## 【SSA (Siblings Support Akita)】

坂田 成美（平成28年度入学）

きょうだい支援を秋田で広めていく団体、SSA (Siblings Support Akita)です。『きょうだい』とは、病気や障害のある兄弟姉妹がいる人のことです。きょうだい同士のつながりと、きょうだい支援のネットワークが広がり、きょうだい安心して過ごせる場所や時間を作ることを目的に活動をしています！活動内容は小学生のきょうだいがおもいきり遊ぶことのできる場をつくったり、大学のきょうだい同士でお茶会をして悩みの共有などを行っています。きょうだいであるか無いかに関わらず勉強になり、楽しむことができるサークルとなっています。



## 【ハングルーズ】

佐々木裕子（平成29年度入学）

ハングルーズでは、月一回、障害のある会員さんと学生が共になり余暇活動を楽しんでいます。会員さんの声を聴きながら学生が活動を企画し、カラオケ、ボーリング、調理実習、お楽しみ会など、月ごとに様々な活動を行っています。会員さんは、いつも明るく私たち学生を迎えてくれます。そのような会員さん方と、活動中に楽しさを共有できたとき、とても嬉しく、やりがいを感じます。自分自身も活動を楽しみながら、会員さんや他の学生と関わる中で、さまざまなことを学んでいけるのがこのボランティアの良さです。



## 【秋田すずめの会】

鈴木 佑理（平成29年度入学）

秋田すずめの会では、毎年6月第1日曜日に仙台で行われる『とっておきの音楽祭』に向けて、うたやダンスの練習を主な活動としています。音楽を通して、自分の気持ちを表現したり、感謝の気持ちを伝えたりする良い機会となっています。これに加えて、学生が中心となって企画運営を行う活動や、クリスマス・成人を祝う会などの定期的な活動を通して、会員さんと学生が交流を深めています！

大学生活の特別な思い出を、私たちと一緒に作りませんか？

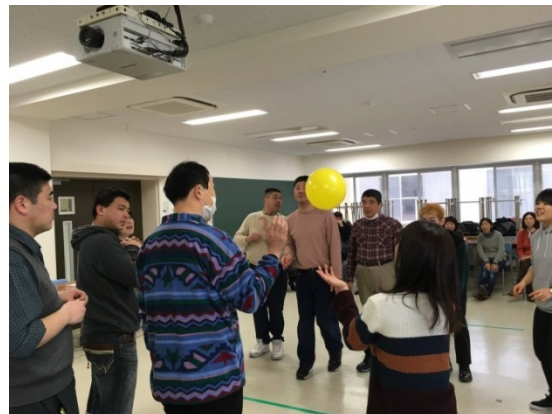


## 【スペースクラブ】

門馬 皆実（平成29年度入学）

スペースクラブでは、月に1回会員さんと1対1のマッチングを組んでの活動を行っています！例えば動物園やROUND1などに行く学外での活動と、学生企画（調理、製作等）やウィンターパーティーなどの学内での活動があり、どちらも充実して濃い関わりをしています！この活動の中で一番大切にしていることは、《学生とユーザーさんが一緒に楽しむ》ということです。

みなさんも一緒に活動してみませんか？





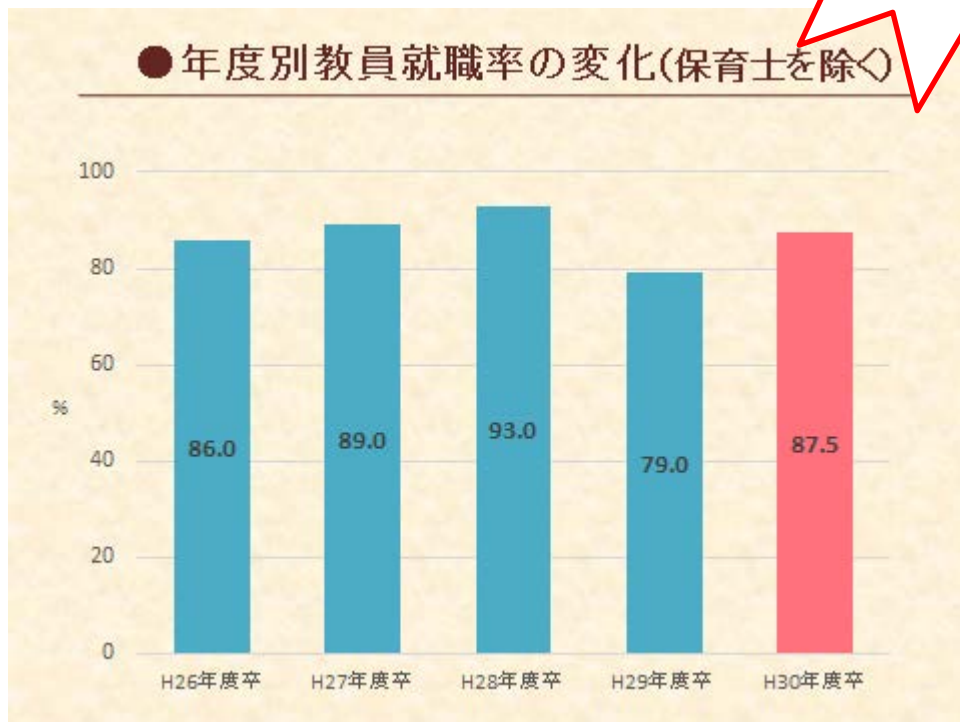
大学祭名物 特研団子



大学祭名物 特研団子



コース行事 演芸祭での4年生



## ■■■ 研究室のスタッフは、次の5人です！

■■■ 前原 和明

■■■ 谷村 佳則

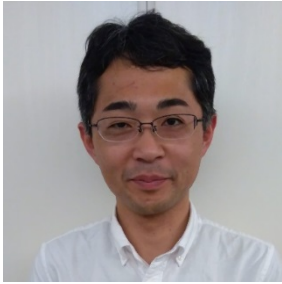
■■■ 武田 篤

■■■ 藤井 慶博

■■■ 鈴木 徹

コース教員のメッセージを是非ご覧下さい。

## 前原 和明 (まえばら かずあき)



### ■ ■ ■ 担当している主な授業

障害福祉論      知的障害教育論      教育福祉実習

### ■ ■ ■ 学生のみなさんへのメッセージ

私はこれまで障害をお持ちの方々の就労支援に携わってきました。このような背景から特別支援学校の児童生徒の皆さん等の障害をお持ちの方々が安心して社会で暮らしていくための方法について研究しています。

私が障害を持つ児童生徒の皆さんと関わりを持つきっかけは、大学2年生の時でした。質問にうかがった大学時代の恩師から自主ゼミへの参加の機会や障害を持つ児童生徒達との関わりへの参加の誘いを受けたことが始まりでした。誘いは受けたものの毎回悩みながら活動に参加していました。このような私を先輩たちは優しく、丁寧にサポートをしてくれました。その結果、様々な子ども達との活動を通しての気づきやその際に恩師から指導に基づく多くの学びを得ました。このような経験から私は、これまで“ふつう”と思っていたことが必ずしも“ふつう”ではないこと、異なる視点から見ることで違う見え方があるということを知ることができました。これらの大学時代に学んだことは、今でも物事を理解するための枠組みとして役立っています。

この特別支援教育コースでは、様々なことを学ぶための機会が多く準備されています。また、コースの先輩たちは誰もが優しく、きっと皆さんの成長をサポートしてくれると思います。

皆さんと共に、障害をお持ちの方々の生涯発達を支える教育のあり方や支援方法について考えていければ幸いです。



# 谷村 佳則 (たにむら かずのり)



## ■■■ 担当している主な授業

障害児教育総論

知的障害教育論Ⅱ

特別支援学校教育課程論

重複障害教育総論

## ■■■ 学生のみなさんへのメッセージ

「教育は人なり 夢なり 心なり 共生と協働を」

この言葉は、恩師でもある岩手大学教育学部名誉教授の鎌田文聰先生から、私が大学教員に赴任する際に贈られた言葉です。

この言葉は、微力ながらも特別支援教育に携わる者として、私自身の大きな心の励みとなり、また、次代を担う学校教員養成の職務に向けて、常に前向きに取り組む活力を与えてくれています。この色紙は、今も私の研究室の一番目立つところに掲示しています。

私は、複数の障害種に対応した特別支援学校制度における教育課程編成の在り方と工夫について、授業づくりとの関係から実際的な研究を行っています。また、授業づくりでは、実践研究を大切にしながら個別の指導計画の作成と活用の在り方から研究を行っています。

研究にもつながりますが、これからの目指すべき共生社会の実現に向けて、特別支援教育の理念や考え方は大切な指針となるものです。このため、この具現化に向けた将来の特別支援教育に携わる教員の養成は、とても大切な職務と考えています。

冒頭の言葉を常に忘れずに、学生の皆さんと共に学び共に育ちながら歩み続けていきたいと思います。ぜひ一緒に、特別支援教育コースで学んでいきましょう。



## 武田 篤 (たけだ あつし)



### ■■■ 担当している主な授業

発達障害病理概論

聴覚障害教育総論

言語障害教育総論

知的障害児生理学実験

特別支援教育研究演習

### ■■■ 学生のみなさんへのメッセージ

「愛だけでは障害児は救えない。」

これは学生時代の恩師の言葉です。なぜかこの言葉は、今も私の脳裏から離れません。学生時代、私は恩師のもとで視覚の基礎メカニズムを解明するために、くる日もくる日もタキストスコープ（視覚刺激を瞬時に呈示する装置）をのぞき込み、誘発電位（脳波）をとる実験に参加していました。そんなある日ふと私の中で、「こんなことをしていて、本当に障害のある子どもたちの支援に役立つのだろうか？」という疑問がよぎりました。

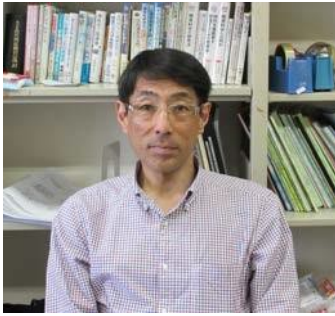
意を決して恩師に疑問をぶつけると、冒頭の言葉が返ってきたのでした。

その後私は、臨床や実践に密着した教室に移り、臨床の現場で働くことになりました。しかし、働きはじめてすぐに熱意や努力だけではだけではどうしようもない現実と直面しました。同時にそのとき初めて基礎研究の重要性というものを知りました。

私は基礎研究に戻ることはありませんでしたが、この言葉を支えに、臨床活動を行い、少しでも知見を積み重ねるという道を今まで歩んできました。「愛だけでは障害児は救えない。」という言葉はこれからも私の中から消えることはないでしょう。

蛇足ですが、この言葉の前には当然ながら「愛がなければ障害児は救えない。でも、」という意味が込められていることはもちろんです。学生の皆さんに、このメッセージを伝え、共に学び合う授業をめざしています。

## 藤井 慶博（ふじい よしひろ）



### ■■■ 担当している主な授業

インクルーシブ教育論      特別な教育的ニーズの理解とその支援

L D・A D H D等教育総論   特別支援教育研究演習   病弱児の心理・生理・病理

### ■■■ みなさんへのメッセージ

ー障害者は支援されるだけの存在なのか？ー

私は以前、特別支援学校の教員をしていました。ある時、A高等学校から交流の申し出があり、「どんな生徒がくるのだろうか」と交流初日を心待ちにしていました。

ところが・・・

玄関先にきた生徒達は、腰パン、茶髪（若干ですが）、ルーズソックス（時代を感じますな～）の出で立ち。各教室に 2～3 人ずつ配属された生徒は、棒立ち状態、両手を後ろに組み、仲間とペチャクチャ・・・

「何じゃ。この生徒たち」と、私は正直頭を抱えました。

ところが、交流の回数を重ねるたびにこの生徒達に明らかな「化学変化」が表れました。服装が変わりました。髪の色が変わりました。何よりも子ども達への接し方が変わりました。交流最後の日、バスに乗って帰る時には全員が涙、涙・・・。

この話は、これで終わりではありません。

後日、この高校生のみなさんが、自分たちでお金を出し合い、バスを借り上げて、特別支援学校の子ども達に会いにきたのです。

この時、私は二つのことに感激しました。

一つは、高校生達の変容です。初めの腰パン、茶髪、後ろ手だった彼ら彼女らが、交流の最後には全員が涙を流し、自腹を切って特別支援学校に会いに来るまでになったことを。

また、それ以上に感激したのは、彼ら彼女らに涙を流させる、そして「もう一度、この子達に会いたい」と、心を驚つかみにした特別支援学校の子ども達の存在です。いったいこの子達のどこに、高校生に「化学変化」を起こさせる力があるのでしょうか？

一般に、障害のある人は「支援される存在」であり、障害のない人は「支援する存在」と考えられがちです。果たして、そのように単純な構図なのでしょうか？

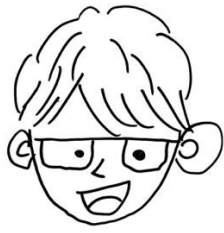
ー共生社会とは？ー

紹介した交流のエピソードからは、特別支援学校の子ども達以上に、高校生にとって大きな学びがもたらされたことを感ぜずにはおれません。

数年後、この時の交流がきっかけとなって、特別支援学校の教員になった、または福祉の道に進んだ高校生がたくさん出たという話を聞く機会がありました。つまり、障害のある子どもたちが、健常者（と言われる人）の人生行路の道標ともなった事実がそこにあったのです。

グローバルな時代です。障害のあるなしにかかわらず、人と人とが向き合うとき、互いの価値を認め合い、多様であることを尊重し合い、共に生きていける社会を形成するために、自分の役割は何なのか、みなさんと一緒に学んでいきたいと思っています。

## 鈴木 徹 (すずき とおる)



### ■■■ 担当している主な授業

知的障害児心理学実験 知的障害児の心理学 特別支援教育研究演習  
障害児教育・福祉制度実習

### ■■■ 私からのメッセージ

大学生時代、私は決して優秀ではなく、むしろ先生方に迷惑ばかりかけていました。所属していた大学では、4年次にゼミが決まることになっており、自分の意思とは関係なく、なぜか一番“厳しい”(と書いて“やさしい”と読む!?)と噂されていた(恩師の)ゼミに所属することになりました。この恩師との出会いが私の運命を大きく変えました。もちろん、良い方向に…。

恩師からの言葉でよく覚えているのは、「子どものミカタが重要だ」です。このミカタには、2つの意味があります。今でも私が子どもとかかわる上で心掛けていることなので、皆さんにもご紹介したいと思います。

1 つ目は、子どもの見方(ミカタ)です。子どもの行動を複数の視点から多角的に解釈することは、かかわり手の支援方略の拡大に直結します。行動に対する多様な解釈を身につけるためには、目の前の子どものことを分かろうとしなければなりません。障害のある子どもとより発展的なかかわりをするために、「かわいい」、「楽しかった」だけではなく、子どもの行動や自分自身のかかわり方を丁寧に振り返る必要があると思います。

2 つ目は、子どもの味方(ミカタ)、いわゆるヒーローになることです。皆さんご存じの通り、毎週日曜朝 9 時 30 分になると、テレビ画面にヒーローが現れます。彼らは、どんなときも嫌な顔をせず、世の中のため、そして何よりも子どもたちのために戦います。子どもたちは目を輝かせながらその姿を観ています。私(と息子)も毎週欠かさず観ていて「ヒーロー戦隊は偉いなあ…」と感心しています。彼らには、子どもたちを楽しませるという“責任と自覚”があるんです。私は、障害のある子どもとのかかわりにも同じことが言えると思っています。障害のある子どもは、周囲とうまく関係が築けず、居場所がないと感じてしまう子が多いです。そ



のような中で、ボランティアで会いに来てくれる学生は、まさにヒーローです。教育現場では、学校の先生が子どもにとってのヒーローになると思います。ヒーローは絶対に裏切らないし、嘘をつきません。憧れの的ですよ。皆さんには、子どものヒーロー(味方)になって欲しいと思います。

2つのミカタは、とても当たり前のことかもしれません。ただ、学生時代を振り返ると、アルバイトや部活など、その当時はそれなりに忙しくて子どものミカタについて真剣に考えたことは少なかったと後悔しています。皆さんには、充実した学生生活を送るとともに、教育現場に出たときに必要な力を身につけて欲しいと思っています。